

## 「10代の妊産褥婦に関わる助産師の意識と支援に影響する要因」

### ・背景と目的

日本の出生数は例年1万3000人程度で推移しており、そのなかで10代出生数は1.3%を占めています。また、福岡県における10代出生数の割合は2014年1.76で、全国平均を超えており、過去5年間において緩やかな増加傾向を示しています。10代の妊娠・出産は、母体・胎児への影響、身体の発達過程での妊娠・出産における身体的リスクや、経済面や育児困難などの社会的リスクが指摘されています。

助産師は、10代女性の妊娠期から産褥期までの出産前後の重要なイベントに直接関わる役割を担っており、この期間の支援が適切か否かによって、その後の育児にも大きく影響することが予測されるため、支援者側としての適切な姿勢や態度についても十分な理解が必要だと考えられます。

そこで、本研究では10代妊産褥婦に関わる助産師の気持ちと支援の現状、およびそれらの関係について明らかにすることを目的とし、10代妊産褥婦が安心して妊娠・出産・育児を経験できるためのより良い支援に繋げることを目指します。

### ・対象

福岡県内の分娩取り扱い施設で勤務している助産師を対象とします。

### ・研究内容

無記名自記式質問紙による横断観察研究を行います。本研究は質問紙調査であるため、心身に生じる危険性は考えにくいですが、質問紙の回答には20分程度の時間を要する煩わしさがある可能性があります。そのため、本研究の参加は自由とします。

### ・個人情報の管理について

本研究は、無記名自記式質問紙による横断観察研究です。また、質問紙到着後、個人情報漏洩を防ぐため、質問紙によって得られた情報は、数値化し統計ソフトに入力後、パスワード付きUSBに保存され鍵付き書架内に保管します。

### ・データの二次利用について

本研究において得られたデータは、九州大学大学院医学研究院保健学分野において、同分野准教授・川田紀美子の責任の下、10年間保管した後、シュレッダー等で廃棄します。データ保存期間中に本研究で得られたデータを別の研究に二次利用する場合には、将来新たに計画・実施される研究が倫理審査委員会で承認された後に利用します。

### ・研究期間

研究を行う期間は、九州大学の倫理審査委員会の承認日より2018年3月31日までです。

・研究機関

**研究責任者**：九州大学大学院医学研究院保健学部門・准教授・川田 紀美子

電話：092-642-6742

E-mail:k-kawata@hs.med.kyushu-u.ac.jp

**研究分担者**：九州大学大学院医学研究院保健学部門・教授・加来 恒壽

九州大学大学院医学研究院保健学部門・教授・谷口 初美

九州大学大学院医学研究院保健学部門・講師・野口 ゆかり

九州大学大学院医学研究院保健学部門・助教・末次 美子

九州大学大学院医学研究院保健学部門・助教・佐藤 洋子

**研究協力者**：純真学園大学保健医療学部看護学科・特任教授・中野 正博

**連絡先担当者**：九州大学大学院医学系学府保健学専攻 修士課程学生 原山 和子

E-mail：2MD15505P@s.kyushu-u.ac.jp

本研究の対象者となることを希望されない方、ご質問がある場合は、原山までご連絡下さい。